

## - 2 . 食のリスクコミュニケーションに関する国際シンポジウム & ワークショップ

### International symposium and workshop on food risk communication

<b>キーワード</b>	食品、リスクコミュニケーション、国際シンポジウム、地方自治体
<b>Key Word</b>	Food, risk communication, international symposium, local government

#### 1. 委託事業の目的

本事業は、平成 19 年度内閣府食品安全委員会公募研究課題「効果的な食品安全のリスクコミュニケーションのあり方に関する研究」(代表:徳島大学 教授 関澤純)の未来工学研究所 主任研究員上野伸子の分担研究として実施した。平成 17 年度 18 年度の研究成果に基づき我が国において「効果的な食品のリスクコミュニケーション」を実施するための議論を行う国際シンポジウムならびに自治体関係者とのワークショップを開催した。本事業を通して、ステークホルダー間との対話をもつ場を創出することを目的とした。

#### 2. 委託事業成果概要

##### (1) 委託事業の構造

###### 国際シンポジウム

オランダ ワーニンゲン大学 教授のリン・フルーワー氏を招聘し、80人規模の国際シンポジウムを東京にて開催した。

###### 自治体関係者の会議

自治体関係者を参集し、自治体における効果的なリスクコミュニケーションならびに国との連携について議論を行う場を設置した。

##### (2) 委託事業の内容

###### 国際シンポジウム

###### 【主催者挨拶と研究成果の紹介から】

13:00 ~ 13:20 「リスクコミュニケーションのこれからを考える」 関澤 純

###### 【基調講演】

13:20 ~ 14: 50 「食品安全ガバナンスにおける消費者と他の利害関係者との関与について」  
(逐次通訳付き) ワーゲニンゲン大学 Lynn Frewer(リン・フルーワー) 教授

休憩 10 分間

###### 【パネルディスカッション】

15:00 ~ 16:30 「食品のリスクコミュニケーションにおける消費者の役割と行政の役割」

司 会: 徳島大学 教授 関澤純 氏

パネリスト:

内閣府食品安全委員会事務局 リスクコミュニケーション官  
小平 均 氏

全国消費者団体連絡会 事務局長 神田敏子 氏

慶應義塾大学商学部 准教授 吉川肇子 氏

### 自治体関係者の会議

【最近の諸問題と「効果的なリスクコミュニケーションのあり方」研究から】

14:00～14:30 「自治体の働きが大切 食品安全のリスクコミュニケーション」関澤 純

【報告】

14:30～14:50 「群馬県の取り組みと今後の展望」

群馬県食品安全会議事務局食品安全課 次長 須野原 修氏

14:50～15:10 「東京都の取り組みと今後の展望」

東京都福祉保健局健康安全室食品監視課長 中村憲久氏

15:10～15:30 「徳島県の取り組みと今後の展望」

徳島県危機管理局副理事(食の安全・安心推進担当) 川西貞之氏

15:30～15:40 (休憩:コーヒブレイクと歓談)

【パネルディスカッション】

15:40～16:55 「これからの食品安全のリスクコミュニケーションと行政の役割」

司会:徳島大学 教授 関澤 純

パネリスト:

群馬県食品安全会議事務局 食品安全課 次長 須野原 修氏

東京都福祉保健局健康安全室 食品監視課長 中村 憲久氏

徳島県危機管理局副理事(食の安全・安心推進担当) 川西 貞之氏

16:55～17:00 まとめと閉会のご挨拶

### (3)主な成果

#### 国際シンポジウム

オランダのワーゲニンゲン大学 Lynn Frewer(リン・フルーワー) 教授からは、ナノテクのリスクコミュニケーションに関する現状の課題、ならびにステークホルダー間の合意形成のためのパブリックエンゲージメントを政策への導入に関する研究が紹介された。Dr.Frewer は、デルファイ法を用いた研究を実施し、今後の課題として、社会科学的な評価を安全性評価にどのように組み込むべきかが指摘された。加えて、関係者間でリスクコミュニケーションのあり方に対する意見交換がなされた。

#### 自治体関係者の会議

下記の論点が明らかになった。

- ・リスクコミュニケーター養成のための具体的取組みは何か
- ・リスクコミュニケーターの要件とは何か
- ・自治体組織におけるリスクコミュニケーションの体制をどのように図るべきかなどである。